

ブドウ棚が作る、あびらの景色。

広い丘とブドウ棚が作り出す景色は、北海道の農の風景でも人気なシチュエーションのひとつだ。もしかすると、そんな風景を求めて安平町を訪れるという人も出てくるかもしれない。季節に限らず北海道の空の玄関口「新千歳空港」が隣接する安平町としては、このワイン事業が観光など関係人口・交流人口の創出にも大きな影響を与えることになるのだろう。今までになかったまちの姿に寄せる期待値は、必然的に大きくなってしまふ。

今年には2ヘクタールの畑でブドウの栽培。来年には8ヘクタール、そして再来年には14ヘクタールまで畑の規模を広げるのだそう。「今お借りしている畑は、景観の良さも決め手のひとつになった。遠くまで見通せるので、フォトスポットなんかも作ることができたら良いななんて思っています」と話す。

安平町は新千歳空港からも苫小牧港からも近く、ドライブや観光で訪れやすい立地であることには変わらない。ブドウ畑の景色を見るために富良野市や小樽市などに足を運ぶ観光者がいる現状を考えても、新た

な層が安平町を訪れることを嫌でも考えてしまふ。

また、まちの人の会話をしている景色にも変化を与えるのかもしれない。「文化として根付けば「今年のワインはタンニンが強く出ているね」とか「爽やかな酸味が良いね」とか、まちの至る所でワインを語りする姿を想像したら面白くない?」と

笑った。ワイン文化がそこまで地域に根付いている産地があるのかは分からないが、そんな姿を目指しているダイナックス。叶えば安平町を語る上で欠かすことのできない、育っていく文化になるだろう。(続)

